

学習ポイント 1

数字を確かめ、言えることと言えないことを分ける

資料は、意見を支える手がかりです。ただし、数字があるだけで結論が正しくなるわけではありません。対象・時期・単位を読み、計算を確かめてから、根拠のある提案へつなげましょう。この教材の調査・数値はすべて学習用の架空資料です。

目標 表の対象・単位・調査方法を確かめ、必要な数値を正確に使う。／事実と推測を区別し、資料だけでは分からないことを説明する。／複数の事実と資料の限界を踏まえ、具体的な提案を書く。

1 表の外側から読む

まず表題、対象、期間、単位、注を読みます。人数と回数、全体と一部を取り違えないことが、読み取りの出発点です。

例 三年生三十人の回答 → 学校全体の意見とは限らない。

例 延べ利用回数四十回 → 四十人が利用したとは限らない。

2 比較の物差しをそろえる

差は引き算、割合は部分÷全体で求めます。全体の人数が違う集団は、人数だけでなく割合も比べます。丸めた数値を使う場合はそのことを示します。

例 $十二人 \div 三十人 = 〇・四$ → 四十パーセント。

例 二十人中十人と四十人中十人は、人数は同じでも割合が違う。

学習ポイント 2

数字を確かめ、言えることと言えないことを分ける

3 事実と推測を分ける

表に直接示された数値や、そこから正しく計算した結果は事実として書けます。理由や背景を想像した部分は、推測だと分かる言葉にします。

例 事実：返却の遅れは六件から三件に減った。

例 推測：掲示が目に入りやすかった可能性がある。

4 一緒に変わっても原因とは限らない

二つの変化が同時に起きても、一方がもう一方の原因とは断定できません。天候、参加者、行事など、ほかに違っていた条件を探します。

例 朝読書をした月に貸出冊数が増えた → 朝読書だけの効果とは限らない。

例 原因を調べるなら、比較する期間や対象の条件も確かめる。

学習ポイント 3

数字を確かめ、言えることと言えないことを分ける

5 資料の範囲を守る

小さな標本や一日の記録は、限られた範囲の様子です。何を調べれば判断しやすくなるかまで書くと、慎重で役立つ提案になります。

例 来館者への調査 → 来館しなかった人の事情は分からない。

例 一週間だけ試し、曜日や天候も記録して比べる。

6 事実から提案へ橋をかける

数値を並べるだけで終わらず、その事実が提案をどう支えるかを説明します。資料の限界を認めることと、提案をやめることは同じではありません。

例 相談席を望む人が多い → 小さく試す根拠にはなる。

例 効果はまだ分からない → 試行後に利用状況を調べる。

原稿欄の使い方

字数条件は使用マス数で確認

この教材の「字数」は、横書き原稿欄の使用マス数で数えます。本文だけの文字数とは異なります。題名・氏名は原稿欄の外に書きます。

1行20マス。段落の最初は1マス空けます。改行は次の行へ進み、前の行の余ったマスも数えます。最終段落の末尾より後の空きマスは数えません。

句読点・かぎ括弧は原則1マスです。ただし「。」と直後の閉じかぎ括弧は同じマスに書きます。句読点や閉じ括弧が行頭に来的时候は、前の行の最後のマスに前の文字と一緒に入れます。

開き括弧が行末に来るときは、そのマスを空けて次の行から書きます。その空きマスも数えます。数字は原則として漢数字を使います。

以上はこの教材でそろえた練習用のルールです。学校・入試の原稿用紙や字数計算に別の指示がある場合は、その指示を優先します。

数え方の例 2段落で30マス

	朝	の	校	庭	を	歩	い	た	。											20
	空	気	が	澄	ん	で	い	た	。	30										

1段落目の残り10マスと、各段落の初めの空き1マスも数えます。最後の文の後の空きは数えません。

取り組み方と参考資料

全10問 | 基礎4問・標準3問・応用3問

学習ポイントを確認してから、問題の問1～7で部分練習をし、問8～10でまとめた作文に取り組みます。構成メモ → 本文 → 条件確認 → 書き直しの順に進めましょう。

解答解説の文章は一例です。経験や立場が異なっても、問いと条件に合い、理由や根拠が読み手に伝われば認められます。各問の確認基準は、この教材の学習用の目安です。全国共通の入試採点基準ではありません。

教材の対象は中学3年生です。基礎から高校入試を意識した短い作文まで段階的に練習します。時間配分や段落構成に、すべての作文に共通する唯一の正解はありません。

本文を書く原稿欄は1マス9mm、短い回答や構成メモの罫線は1行10mmです。原寸（100％）で印刷すると、この大きさに使えます。

すべての例文・設問・作文例・資料は、本教材のために作成したオリジナルです。表の数値や調査は架空であり、実在の学校や社会全体の傾向を示すものではありません。特定の入試問題や教科書本文は転載していません。

学習範囲の参考資料

文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編

第3学年「書くこと」（冊子120～123ページ）を学習目標の確認に使用。例文・設問・資料は転載していません。

資料確認日 2026年10月8日。資料名から文部科学省の資料を開けます。